

令和4年度遺伝子組換え作物栽培計画書 別添図表

令和4年度隔離ほ場栽培従事者一覧

業務管理責任者

金山 喜則 東北大学遺伝子組換え実験安全専門委員

業務管理主任者,種子管理及び記録責任者,

隔離ほ場維持管理及び入退記録責任者

石山 敬貴 東北大学大学院農学研究科 助教

隔離ほ場管理者

鈴木 和美 東北大学大学院農学研究科附属複合生態
フィールド教育研究センター 技術職員

業務従事者

牧野 周 東北大学 名誉教授

業務従事者

前 忠彦 東北大学 名誉教授

業務従事者

石田 宏幸 東北大学大学院農学研究科 教授

業務従事者

鈴木 雄二 岩手大学農学部 准教授

業務従事者

菅波 真央 福島大学食農学類 助教

業務従事者

永尾 梨奈 東北大学大学院農学研究科
博士課程前期2年

業務従事者

菅野 遥 東北大学大学院農学研究科
博士課程前期1年

業務従事者

佐藤 詩織 東北大学大学院農学研究科
博士課程前期1年

川渡フィールドセンター隔離ほ場位置と施設図面

東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター隔離ほ場(通称, 隔離ほ場)および隔離ほ場内施設

(宮城県大崎市鳴子温泉字蓬田232-3; 北緯38° 44′、東経140° 45′、標高140 m)



図1, 東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター施設所在地 (左、縮小; 右、拡大)



図2, 東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター周辺隔離ほ場試験区より、最も近い一般農家の水田までの距離は約400 m、また、センター内の最も近い研究用水田までの距離は200 mである。

川渡フィールドセンター隔離ほ場位置と施設図面



令和3年度住民説明会案内書

令和4年2月1日

令和3年度 Rubisco 過剰生産及び生産抑制遺伝子組換えイネを用いた隔離ほ場での生育及び収量評価試験実績報告、及び令和4年度同試験計画に関する 公開説明会

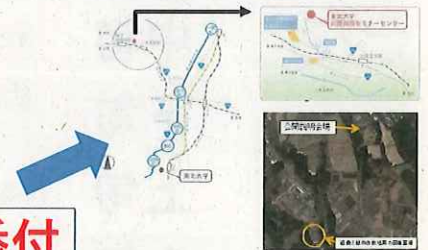
東北大学 環境・安全委員会遺伝子組換え実験安全専門委員会
同大学院農学研究科

日時： 令和4年3月26日(土) 13:30～17:00

場所： 東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター・新研究棟

議事予定

1. 開会
2. 令和3年度 Rubisco 過剰生産及び生産抑制遺伝子組換えイネを用いた隔離ほ場での生育及び収量評価試験実績、及び、令和4年度同試験計画について
石山 敬貴 (大学院農学研究科)
3. 質疑応答
4. 閉会
5. 隔離ほ場(現場)の見学 *希望者



会場までのアクセス

【公共交通機関】

- ① 仙台駅 → (東北新幹線) → 古川駅 → (陸羽東線) → 川渡温泉駅 → (徒歩約 45分・タクシー約5分) → セミナーセンター
- ② 仙台駅 → (東北本線) → 小牛田駅 → (陸羽東線) → 川渡温泉駅 → (徒歩約 45分・タクシー約5分) → セミナーセンター
- ③ 仙台駅 → (高速バス) → 古川駅 → (陸羽東線) → 川渡温泉駅 → (徒歩約 45分・タクシー約5分) → セミナーセンター

【自家用車】

- ① 仙台 → 東北自動車道 → 古川インター → (R47 鳴子・新庄方面約 40分) → セミナーセンター

*以下、HP をご参照ください。

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kawatabi/access.html>

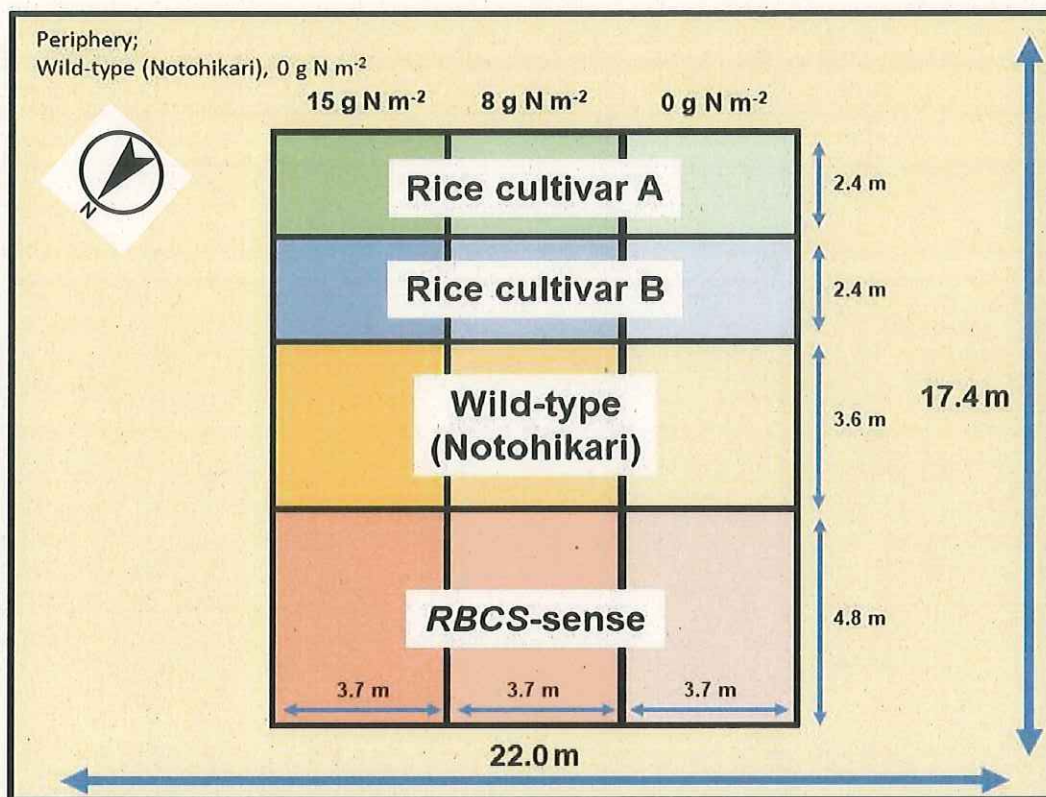
地図は別添付

アクセスについては、HPのURLを参照
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kawatabi/access.html>

令和4年度隔離ほ場作業工程表

日付		作付け関連	研究関連	査察
3月	26日	住民説明会		
4月	中旬	播種・耕起		
	下旬	ほ場内除草(作付け水田は除く)		第一回査察
5月	上旬	施肥・代掻き		
	中旬	定植・ほ場内除草(作付け水田は除く)		
	下旬	残苗処理		
6月	上旬	追肥	生育調査・サンプリング	第二回査察
	中旬	ほ場内除草(作付け水田は除く)		
	下旬			
7月	上旬	追肥	生育調査・サンプリング	
	中旬	追肥・ほ場内除草(作付け水田は除く)		
	下旬	防雀網・風速計・花粉トラップ設置	生育調査・サンプリング	
8月	上旬	ほ場内除草(作付け水田は除く)	生育調査・サンプリング	第三回査察
	中旬	風速計・花粉トラップ撤去		
	下旬			
9月	上旬	ほ場内除草(作付け水田は除く)		
	中旬	収穫・落穂拾い	サンプリング	
	下旬	鋤込み・防雀網撤去		
10月	上旬			第四回査察
	中旬	鋤込み	サンプル解析	
	下旬			
11月	上旬			

令和4年度隔離ほ場砂質水田作付け予定図



Rice cultivar A; 秋田63号

Rice cultivar B; 能登ひかり交雑種

Wild-type; 能登ひかり

RBCS-sense; Rubisco過剰生産イネ

隔離ほ場砂質水田を三分割し、畝幅・株間(30.0 × 16.7 cm)に、一株3-4本(20株/m²)植えて、野生型イネおよびRubisco過剰生産イネを、それぞれ約2000本、植え付ける。尚、播種及び定植は、手作業または機械(田植機;クボタ歩行型sp-2)で行う。試験区の周辺部は、能登ひかりを植え付ける。

